

言語文化 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	1年〇組教室
クラス	1年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	言語文化	単元名	歌物語
使用教材	伊勢物語「芥川」	使用教科書	『高等学校 言語文化』 第一学習社
教材観	<p>本教材は平安時代を代表する仮名文学の歌物語である。歌物語を読むに当たって最も重要視すべきは、その話の中で和歌がどのような位置付けにあり、どのように機能をしているかに注目する視点である。31字という短い文字の中に込められた詠者の心情に注目するためにも、本文の内容や構成を的確に捉えた解釈が大切である。他方で和歌に込められた思いを読み解くことで、本文の内容や構成の理解を深化させることができるのが歌物語の面白さである。さらにこれらの心情は、千年以上の時空を超えた現代でも共感できるものが多い。</p> <p>「芥川」には次のような教材としての特徴がある。まず、高校生段階が興味をもちやすい「恋愛話」である点。長年求婚していた女を親の許可なく男が盗み出す様はまさに駆け落ちの話であり、ロマンチックな話であるがゆえに生徒達の興味をひきやすい。次に超常現象の象徴である「鬼」が登場する点。やっとのことで盗み出した女を鬼に食われてしまう描写は現実では起こりえないことであるが、「鬼」という存在が登場するがゆえに、周囲の状況などとも相まって緊迫感を演出することに寄与している。この緊迫感が生徒達を引き込む素材となる。これらのよさをいかして和歌解釈をすることで、歌物語の特徴をより理解できる教材である。</p>		
生徒観	<p>学習集団として意欲が高く、新しい知識を吸収しようとする姿勢がある。ペア学習などの活動にも積極的であり、学び合う習慣が形成されている。例えば、理解できている事柄を言語化してお互いに説明する活動を通して習熟度を向上させようとしたり、理解の及ばない事柄を教科書や補助教材を用いながらお互いに考え合ったりすることができる。特に、仲間が間違った考え方をした時には、「なぜそのような考え方が起こるのか」「正しく考えるためにはどんなことが必要なのか」等、仲間の間違いを受容しながら、答えを丸暗記するのではなく、正しい考え方を身につけようとする姿勢が多く見られることから、良好な学習集団だと感じる。そのような姿勢を尊重しながら、生徒達の能力向上につなげたい。</p>		
指導観	<p>本単元では、高校段階で初めて和歌に触れることになる。そのため、和歌解釈の基本を身につけさせたい。そのためにも、まずは単語、用言、助動詞などの基本的な古典読解の文法事項を確認した上で、丁寧な本文解釈に努めたい。ただし、古典読解の文法事項の習得だけでは、古典を学ぶ意義自体を感じにくいものとさせるため、本文に登場する男と女の恋愛話、愛する女と離れ離れになってしまった男の悲痛な思い等、千年以上の時空を超えた現代でも共感できる内容に丁寧に触れることで、現代に通ずるものの見方や感じ方、考え方を深め、我が国の伝統や文化について思いを馳せることができるように指導をしていきたい。</p>		

## 1 単元の目標

(1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。

[知識及び技能] (2)イ

(2) 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。

[思考力、判断力、表現力等] B(1)エ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

## 2 単元の言語活動

伊勢物語と異なる時代に成立した絵巻物や説話集とを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする。

(関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)ウ)

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。((2)イ)	① 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。(B(1)エ)	① 本文の内容を理解した上で、異なる作品を読み比べる活動に取り組むにあたって、伊勢物語と絵巻物や説話集との表現の違いについて粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

## 4 指導と評価の計画 (全7時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見直しをもつ。 ○『伊勢物語』について理解を深める。 ○本文の音読を繰り返し行い、本文の語句やリズムに慣れる。 ○事前に配付した学習プリントの答え合わせをすることで、用言と助動詞に関する理解を深める。	[知識・技能] ①	「記述の分析」ノート 「記述の点検」ワークシート
第2次 (4時間)	○本文の内容読解。	[知識・技能] ①	「記述の分析」ノート
第3次 (2時間)	○本文と『伊勢物語絵巻』を本文とは異なる描写に注目しながら読み比べる。 ○本文と『今昔物語集 卷二十七第七話 在原業平中将女被噉鬼語』を本文と異なる描写に注目しながら読み比べる。  (本時2/2)	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の点検」ワークシート

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○『伊勢物語』について補助教材を用いて理解を深める。</li> <li>○本文の音読を繰り返し行い、本文の語句やリズムに慣れる。</li> <li>○事前に配付した学習プリントの答え合わせをことで、用言と助動詞に関する理解を深める。(ワークシート①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在原業平及び古代の結婚、恋愛についても理解させる。</li> <li>・単調にならないように範読、追読、ペア読み等さまざまな音読方法を駆使する。</li> <li>・答えを確認し、なぜそうなったかを調べさせたり、考えさせたりする。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を分析し、理解度を分析する。</li> </ul> <p>「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を点検する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「昔、男ありけり。～戸口にをり。」の内容を読解する。(助動詞除く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に前回の復習及び音読を行う。</li> <li>・古文単語、助詞、主語などを確認し、大まかな話の流れを理解させる。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を分析し、理解度を分析する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「昔、男ありけり。～戸口にをり。」の文法事項(助動詞)を読解することで、より深く内容を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に前回の復習及び音読を行う。</li> <li>・前回の大まかな話の流れをもとに、助動詞に特化した学習を行うことで、正確な現代語訳ができるように指導する。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を分析し、理解度を分析する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「はや夜も明けなむ～かひなし。」の内容を読解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に前回の復習及び音読を行う。</li> <li>・古文単語、助詞、主語、助動詞と項目に分けて読解を進めることで、一つ一つ理解した上で、正確な現代語訳ができるように指導する。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を分析し、理解度を分析する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「白玉か…」の和歌を読解し、和歌に込められた心情と話の中での和歌の役割を理解する。</li> <li>○読解演習(ワークシート②)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に前回の復習及び音読を行う。</li> <li>・和歌解釈の基本を身につけさせる。</li> <li>・読解演習をさせることで、身につけた力をアウトプットする力を身につけさせる。</li> </ul>	<p>[知識・技能] ①</p> <p>「記述の分析」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を分析し、理解度を分析する。</li> </ul> <p>「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載内容を点検する。</li> </ul>

6	○本文と『伊勢物語絵巻』を異なる描写に注目しながら読み比べる。(ワークシート③)	・歌物語と絵巻物の読み比べ活動を通して、書物のジャンルによる描写の違いを読み取り、歌物語の特徴や面白さが感じられるように指導する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。
7 (本時)	○本文と『今昔物語集 卷二十七第七話 在原業平中将女被噉鬼語』を異なる描写に注目しながら読み比べる。(ワークシート③)	・歌物語と説話集の読み比べ活動を通して、書物のジャンルによる描写の違いを読み取り、歌物語の特徴や面白さが感じられるように指導する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。

≪本授業における評価の実際≫

5 観点別学習状況の評価の進め方

共通必修科目「言語文化」の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕「B 読むこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「40～45 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導するとともに、古典における古文と漢文の割合は、一方に偏らないようにすること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B 読むこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のみとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解できている」状況を、「当時の価値観や作品が成立した背景などについて、本文や補助教材を用いながら理解を深めている」姿（「おおむね満足できる」状況 (B)）と捉え、授業中の発言及びノートへの記述を中心に、ワークシートの取り組み状況なども点検して評価する。

理解を深めることができていない状況を C と捉え、補助教材の該当箇所を示したり、ペア活動での教え合いを促したりして、読み取りを行うよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができていく」状況を、「資料をもとに根拠を明確にして、内容の解釈をしている」姿（「おおむね満足できる」状況 (B)）と捉え、授業中の発言及びノートへの記述を中心に、ワークシートの取り組み状況なども点検して評価する。

内容の読み取りができていない状況を C と捉え、補助教材の該当箇所を示したり、ペア活動での教え合いを促したりして、読み取りを行うよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「本文の内容について粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「本文注釈や補助教材を用いながら粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況 (B)）と捉え、授業中の言動及びノートへの記述を中心に、ワークシートの取り組み状況なども点検して評価する。

本単元を基にした学びを得られない状況を C と捉え、補助教材の該当箇所を示したり、ペア活動での教え合いを促したりして、学びを深めるよう促す。

6 学習指導案(7時間目/全7時間)

本時の目標：ア。「歌物語」と「説話集」を読み比べる活動を通して、ジャンルによる描写の違いに気づき、歌物語の内容の解釈を深めることができる。

[思考力・判断力・表現力等] B(1)エ

言語活動：伊勢物語と異なる時代に成立した絵巻物や説話集とを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 2分	□本時の活動内容と目標を確認する。	・本時では『伊勢物語』(歌物語)と『今昔物語集』(説話集)の読み比べ活動を行うことを理解する。	・活動内容を理解させる。
展開① 15分	□『伊勢物語 芥川』と『今昔物語集 卷二十七第七話 在原業平中将女被噉鬼語』を、異なる描写に注目して読み比べる。	・『今昔物語集 卷二十七第七話 在原業平中将女被噉鬼語』と《資料》の内容読解を行う。(10分) ・『伊勢物語 芥川』とは異なる描写を洗い出す。(5分)	・分からない言葉がある場合は、辞書や補助教材で調べてもよいことを伝える。
展開② 30分	◎歌物語としての特徴と説話集としての特徴がそれぞれの書物のどの点に表れているかを文章にまとめる。	・説明すべき内容を文章にまとめる。(30分)	【目標アに対する評価規準と評価方法】 規準：「歌物語」と「説話集」を読み比べる活動を通して、ジャンルによる描写の違いに気づき、歌物語の内容の解釈を深めることができている。 方法：「記述の分析」(ワークシート、フローシート、机間指導) [状況Cに対する手立て] ・ワークシート内の《資料》にある言葉の意味を調べさせ、関連する内容を各本文から抽出するよう促す。
まとめ 3分	□まとめ  □ワークシート提出	・ジャンルの相違は、物語の語り方の違いにつながり、歌物語は和歌があることで趣深いものになっていることをまとめる。 ・完成したワークシートを提出する。	・「歌物語」、「説話集」では、語り方の違いがあることをまとめる。 ・未完成の生徒は、仕上げてから提出しても良いことを伝える。